



Milk Hall Times 35th

COLUMN

1999年12月某日

ユウは、中東北部の砂漠地帯、時折強く吹き荒れる熱砂の中に立っていた。彼は水い旅の途中、あるきっかけで武装した人民軍と同行する事になったが、これは彼にとって幸運だった。彼は日本を出る時50人位の人間が一生涯暮らせるくらい丸薬状の食糧『M』を持っていた。日本では誕生と同時に125年分のMが支給される事になっている。政府はいつも人間の寿命はまだまだ伸びて行くと思っているが、実際には55年が限界で、その頃には誰もが原因不明の死を迎えていた。また、政府は崩壊した国家からとめどもなく世界中に流れ出した難民達を初め、年々悪化する気象条件や、食料や燃料をめぐって次々と起こる戦争難民達を、緊迫する国際情勢のもとに受け入れてきた結果、人口で膨れ上がった都市を管理する事は不可能になっていた。純粋日本人だけにMを支給する事しか保障できなくなり、海外に出ようとする若者を保護する目的でさらに彼らに8人分のMを支給した。そんな事情でMは、日本人の間ではだぶつき、世界事情の中では通貨の意味を持ち始めていた。

ユウは、そんな事情の中で国を捨ててきたひとりだった。生産活動が意味を持たない国には、生きる事の価値さえ疑問だという若者が多く、それは当然の事でもあるが海外に出たとしてもつらく永い死へ向かう旅を意味する事も多い。

彼はモロッコで人民軍の一人である『ムーン』と名乗るアジア系の男に出会った。彼とは往来で一度、黄色い建物で一度会った。黄色い建物は世界中に在り、国を持たない人達の家の意味である。3度めに会った時、彼は自分達の仲間に入るよう求めた。彼らは武装しているとはいっても特定の敵があるわけではなく、人種も国も全くばらばらな正体不明な人間達の集まりで、ユウのようにあてのない旅人たちが自営の手段として自然と集まり防備して暮らすコミュニティのような集団であるが、前身は人民軍である事が多く砂漠の中で暮らす手段と、守りに撤した武力は驚くほどである。

ユウは、20人余のキャンプ3年分の食糧Mと交換に、砂漠での安全な旅を手に入れることができた。砂漠の強い風を凌ぐには、大人数のキャンプに潜り込むのが一番の方法である。彼らは、風と砂と激しい温度差から完全に身を守る事の出来るカプセルをもっていった。砂と熱と絶え間なく体温を奪う風さえ克服出来れば、砂漠ほど安全な楽園はないとムーンは言った。外敵は殆どない、細菌もここでは生きられない。我々は、目的のない旅をしているのだから道に迷って心細い思いもしない。ただ束の間の美しい星空や、美しい音のない旋律を描く砂の風紋を愛して生きている。我々は砂とともに生き、最後は砂に葬られるだろう。砂は我々の体を受け入れ、我々もすぐにあの風紋になることが出来るだろう。砂はこの大地の最後の形なのだ。

砂漠での最後の夜は静かでも美しく、宝石をちりばめたような星と、均整のとれた三日月の光りの下、いつまでもムーンは話続けた。

2000年の最初の夜明けが訪れた時、ユウは、皆に別れを告げた。そして、東へと歩き始めた。

賀 正

A HAPPY NEW YEAR

べったん べったん

暮れも十五日を過ぎると、朝から晩までいっせいに、江戸の町に威勢の良い餅つきの音が響き渡り始める。

十三日は千代田のお城から下町の長屋までが煤払い。

正月事始めの始まりだ。

町人達は、引きずり餅を頼み、町内蔭の者、人足を雇い、釜・うすきねを荷ない、餅注文の家の前で餅をつくののである。

餅米を洗い、蒸し、うすでつき、つきたての餅を団扇で冷まし、近所のおかみさん連中も手伝って、ムシロの上で揚げたり、適当な大きさに切り、正月に欠かせない餅の出来上がり。

今も昔もこれだけは変わらないというのが正月の餅、電気餅つき機なんて便利な物が出来てもとりあえず『おめでとう』で正月を迎えてお雑煮をいただく。

元日の朝、父と母が座蒲団をはずし、ふたり共きちんと正月用の着物を着、表替えしたばかりの畳に両手を突き、深々と頭を下げ、「新年おめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。」と新年の挨拶をする。自分も横に並びなんとなく神妙になって顔を強張らせ、母といっしょに頭を下げた。

それらの儀式を終えてやっと、お雑煮をいただくことになる。毎年毎年のこの儀式がつらいような、怖いような気がして、いつも早く済んでくれればいいと思っていた。

でもこれは、いつも楽しいことの前になくてはならない歯止めのようなものでたとえ、夏休みの前に必ず成績表があるように、何かしら難題をいつも与えられるものだと思っていた。

その母も、もうとうに亡くなり、姉の代になった我が家の儀式はずっと簡単なものになった。

遠く生家を離れて暮す今、ふとあの時の様子が映画の一場面のように浮かんで来ることがある。この頃ようやく父の頑固さも母の生真面目さも、少しわかりかけそうな気がしている。

INFORMATION

★ミルクホールの蚤の市

1月12日 土曜日 朝9時より

毎月第二土曜日は、ミルクホールの蚤の市を開催しています。古いものなら何でもという、月に一度のガラクタ・骨董市です。箆笥、火鉢、伊万里、黄瀬戸、大正の洋家具、洋食器などなど

★JAZZ LIVE

1月19日 土曜日 夕方6時より

今年最初のミルクホールのライブのお知らせです。

加藤 孝之 & 是安 則克 バンド

ギター & ベース & サックス & 女性ボーカル

PM 6:00 ~ PM 9:00 FEE ¥700

